

「(プログラム名称を記入) 参加報告書」

京都大学大学院・経営管理教育部2年 (穴倉 洋介)

(1)学習成果

とても学習成果が上がったように思います。特に、中国語授業は、クラスに非漢字圏で育った欧米人もいたので、writing/readingではなくlistening/speaking主導であり、英語で中国語を学べる楽しい内容でした。

(2)海外での経験について

これまで観光等で訪れた国と比較して、台湾は安全で安心できる心のゆとりが持てたように思います。これが治安や防犯に気を遣い過ぎる日々だと、講義以外でも精神的に疲れてしまったのではないかなとも思います。また、日本で馴染み深いお店も進出しており、あまり海外にいるという感覚にならないという印象も受けました。

(3)プログラム内容

とても内容が濃いプログラムだと思います。プログラムは主に、(1)中国語授業、(2)英語講義、(3)フィールドトリップ、(4)アクティビティ、(5)グループワークに分けることができます。それ以外にもパーティーや個人的な週末旅行なども加えれば、毎日何らかのイベントがある印象でとても充実しています。

中国語授業はICLPという団体が行っており、即応的な会話重視の授業です。中国語に自然に興味湧くような内容になっています。参加時の中国語のレベルは初学者でも全く問題ありませんが、個人的には日本で発音や初級レベルを学んでから参加すると学習効果が高いようにも思いました。一点、個人的な希望を挙げるとすれば、最初のテストでクラス分けがされるので、中間テストの成績によってクラス変更等が可能なシステムだとより学習効果が高いのではないかと思いました。初回テスト、中間テスト、最終テスト、最終プレゼンがあります。最終プレゼンは中国語での劇または発表を行います。

英語講義は国立台湾大学の先生による英語の講義です。内容は、台湾の食文化、台湾のフォークロアや宗教、台湾の音楽、台湾のお茶文化等です。この講義は、中国から参加している学生とも一緒に受講します。全員で映画を見て、与えられたトピックについて各グループでディスカッションし、発表するというものもありました。特に台湾のフォークロアについての講義では、台湾の歴史に触れる部分もあり台湾の文化を知る上で興味深い内容でした。この英語講義に関連するトピックを一つ自分で設定し、最後にレポートを中国語または英語で提出します。

フィールドトリップは宜蘭への1泊2日旅行、猫空、国立故宮博物院と士林夜市、大龍峒保安宮等へ参加するイベントです。ほとんどのフィールドトリップで中国から参加している学生と一緒にになりますので、他国の学生との交流があり、仲良くなれます。

アクティビティは、書道、麻雀、カンフーなどを習う自由参加のプログラムです。書道では団扇を作ったり、麻雀では簡単なトーナメントが行われたり、カンフーでは台湾大学カンフー部の指導で護衛術を習ったりします。良い息抜きになりました。

グループワークは、映像作りです。中国から参加している学生と一緒にグループで、台湾やこのサマースクールに関連した映像を作り、Youtubeにアップロードします。最後に全員でその映像を鑑賞し、先生からの評価やコメントを受けます。中国から参加している学生は、台湾大学の研究室で共同研究している学生と台湾文化を学んでいる学生がいます。南アメリカやフランスから参加している学生の中には高校生もいました。個人的には、学生の目的や意識がかなり異なる印象を受けました。上記の全てのプログラムにも言えることですが、単位取得目的の学生もいれば、遊び目的の学生もいるので、グループワークへの参加にも熱心さの意識の差は反映されていると思います。

(4)進路への影響について

私の場合、後期の留学に向けて中国語を向上させたいという思いからこのプログラムに参加しましたので、引き続き中国語の勉強を続け、後期の留学を成功させたいと思っています。幸せだったことは、このプログラムに参加したことで、多くの貴重な出会いを得られたことです。将来的に、英語や中国語が活用できる企業への就職を真剣に考えるようになりました。